

平成30年3月5日

国土交通省立野ダム工事事務所長 鶴木 和博 様

立野ダムによらない自然と生活を守る会 代表 中島康
ダムによらない治水・利水を考える県議の会 代表 西 聖一
立野ダムによらない白川の治水を考える熊本市議の会 代表 田上辰也
代表連絡先 熊本市西区島崎4丁目5-13 中島康 電話 090-2505-3880

立野ダム建設に関する説明を求める要請書

国土交通省は、これまで住民が提出した9通の公開質問状に全く回答せず、「ホームページで丁寧に説明している」との姿勢です。しかし、ホームページ上の国交省の見解は、住民が出した質問に対して肝心な点には答えておらず、住民の質問と国交省の見解が全くかみ合っておりません。1月12日の九州地方整備局での3団体への説明も、国交省のホームページのコピーを配り、その範囲内のもので、住民側の公開質問状にまともに答えたものではありませんでした。

また、国交省はこれまで住民が何度も要請した立野ダム説明会さえ一度も開催しません。国交省は昨年7月より、立野ダム予定地を含む「白川復旧・復興対策現地見学会」を4回開きましたが、その開催は住民に周知されず、インターネット等で予約したごく少数の住民しか参加できませんでした。事前に提出していた公開質問状への回答は一切なく、その場での質問に対しても「ホームページを見るように」と繰り返すばかりでした。現地見学会と説明会は全くの別物です。

国交省のホームページから立野ダムの情報を得るような住民はごく少数です。見ても「国交省のホームページを読んでも立野ダムのことがよく理解できない」「実際に説明してほしい」「納得できない」「さらに疑問がつのる」との感想ばかりです。立野ダムがどこに、どのような目的で建設されるのか、流域の住民の大半は知るすべさえありません。国交省は「住民に知らせない、住民の声を聞かない、住民の疑問に答えない」という姿勢を改めるべきです。

地元議会や県議会での質問で、首長は住民に対し丁寧な説明を国に求めていきたいと答弁しています。国交省は首長の要請にこたえているのか大いに疑問があります。

これまで当会が主催した集会では、国交省のホームページに掲載された国交省の見解を、当会が参加者に説明しました。行政の主張を住民が説明せざるを得ないことは、異常なことです。そこで、下記集会に国交省担当者の出席と、立野ダム建設に関する説明を要請します。国交省の考えを住民に知らせるまたとない機会です。

案内チラシの作成上、3月9日(金)までに文書でのご回答をお願いします。なお、欠席される際は、欠席の理由も明らかにしてください。その際、昨年3月に回答された「都合により」などの記述ではなく、具体的な理由をお知らせください。

記

1. 集会名 (仮称) 熊本地震2周年「立野ダムを考える集会」
2. 日時 平成30年4月20日(金) 午後7時(予定)
3. 場所 パレア会議室1(鶴屋東館9階) 熊本市中央区手取本町8番9号
4. 上記集会で15分程度、立野ダム建設についてご説明いただきたい。
5. その他
 - 出席される場合は、ご説明される方のお名前(予定でも結構です)をお知らせください。
 - 欠席される場合は、具体的な理由を明記してください。
 - 欠席される場合は、残念ながら住民代表が国交省に代わり、国交省の見解を参加者に説明します。
 - 参加、回答の有無を、各報道機関にお知らせします。

以上